

ふるさとの春

山本 和夫

ルリビタキが

るり色の背をのびし

赤みがかった黄色の胸毛をこきざみに、

ピチュリ チュルルチュ チュル リ

春がきたのです。

白い歯をむきだし、

断崖^{だんがい}や奇岩^{きがん}にぶちあたってた日本海の波濤^{なみ}も、

なごみはじめ

大空にただよう暖かな白い雲をうつし出します。

冬木立^{こだち}が、いっせいに芽ぐみだした、

■ 詩の作者 ■

やまもと かずお

1907～1996年。児童文学者・詩人。福井県遠敷郡松永村門前（現小浜市門前）生まれ。戦時中は戦意高揚の作品を書く。戦後、児童文学に専念し、偉人伝にも多くの作品を残す。『燃える湖』（1964年）で第13回小学館文学賞、詩集『海と少年』（1975）で第22回サンケイ児童出版文化賞大賞、詩集『シルクロードが走るゴビ砂漠』（1985）で第15回赤い鳥文学賞受賞。小浜市門前・明通寺境内に「青の村」詩碑がある。

名刹高成寺の裏山は、

空海巡錫にちなむ四国八十八ヶ所の縮図で、

海を見下ろす曲りくねった山路には、

八十八体の石仏が、点、点、

つらなって微笑し、

たどる旅人は遍路さんに早がわり。

時計の無かったおおむかしの静けさです。

ゆうべは満月でした、

若狭富士にかけて、

さっと、かすかな虹がかかったつけ。

注 高成寺 福井県小浜市青井にある臨済宗南禅寺派の寺院。小浜藩蘭方医中川淳庵の碑がある。

若狭富士 青葉山の別称（福井県高浜町と京都府舞鶴市との境にそびえる）

『青の村 山本和夫文学ガイド』保坂登志子編著（かど創房、1989年）

▼表紙絵の作者▲



高橋 良松

（たかはし・よしまつ）

1918（大正7）年、神奈川県横須賀市に6人兄弟の長男として生まれる。1937（昭和12）年4月、東京美術学校（現東京芸術大学）日本画科入学。自宅近くの海浜風景、とくに観音崎の灯台付近の水彩画の写生に励んだ。1941（昭和16）年7月、卒業。1942（昭和17）年1月、応召し、赤羽工兵隊に入営。1943（昭和18）年4月5日、満州第406部隊に転属し、ハルビン麻野間隊に配属。1945（昭和20）年6月22日、ニューギニア・ムッシュ島において戦死。享年27。